

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科2年

氏名: 知花 暢人

授業科目名	STEMのための国際コミュニケーション海外研修(GOES)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>オーストラリアでは主に英語についての講義を様々なアクティビティを通して学ぶことができました。オーストラリアでの学習結果としてはCELTでのクラスのレベルをLv.4からLv.5へ上げることができました。またLv. 5では自身の英語のリスニング能力向上、英語で専門分野の説明ができること、この二点が今後の課題であることがわかりました。またCELTの講義を通して英語での学術的なレポートやエッセイの書き方について学ぶことができました。加えてポキャブラリーや英熟語、発音などの基本的な英語に関する能力も使用回数を増やすことで練度を高めることができましたと考えています。</p> <p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>オーストラリアでの生活で得た気づきや学びについてですが、最も印象的なものは「スモールトーク」の文化です。留学中、髪を緑に染めて生活していたのですが、街を歩く際やレストラン等のお店を利用した際に「君の髪色好きだよ。」「いいスタイルだね。」などと話しかけられることが少なくありませんでした。このように、あいさつ代わりに相手に話しかける文化も面白いと感じましたが、基本相手を褒めるというスタンスは、ほかの人と違うことを是としない僕の周りの空気感と比べて、生活するうえで気持ちよく過ごすことができるのではないかと考えました。</p> <p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修前と研修後で変化した考え方は英語への認識です。中学校からの英語学習は単にテストの点数を取るものであり、コミュニケーションとしての認識は薄かったように感じます。実際に海外に出て「英語で話すことが普通」という環境に身を置いたときテストで採点しやすい読む書くという部分にだけ特化した英語の能力ではコミュニケーションをとることが少し難しかったと考えます。そこで、一度文法や発音を一度をわきに置いてとにかく話してみるということに注力すると、相手は採点者ではないのである程度こちらのミスにも目をつぶってくれ、何を言おうとしているのか予想を立ててくれます。</p> <p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>地域社会の発展が一個人の英語力で変化できるような影響力はあまりないと考え、また実際に英語を活用する場面の少ない環境に私はいると考えている。ただその少ない機会に向けた準備を行うこと、また英語を活用する場面の多い環境に飛び込めるように英語力(特にリスニング能力)を磨き続けたいと考えている。これから社会人として働くうえで自身の目標としては海外研修を活用してMBAの資格を取ることを目標とする。また海外での生活を視野に入れたコミュニケーション能力も維持、向上させていきたいと考えている。</p>	

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科2年

氏名: 須原 出海

授業科目名	STEMのための国際コミュニケーション海外研修(GOES)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>現地の語学学校CELТでは5週間を1タームとしており、そのターム末に4技能の習熟度を測るテストが行われ、次タームにおけるクラスの振り分けの判断材料として用いられる。クラスは1番下が1から最大6までの6段階のレベルがあり、私はレベル3からのスタートだった。私はそのテストでいいスコアを取りクラスレベルを上げることが、1番早く手に入る英語の習熟度を定量的に示す指標となると考え、特にテストに力を入れて取り組んだ。具体的にはテストに向け授業の内容の復習はもちろんのこと、日常で出てきた用法や意味の知らない単語をノートにまとめるなどした。結果、研修期間中に2度行われたテストでいずれも次タームに上のレベルに上がることのできる評価を得ることができた。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>ルーマニアのある思想家の言葉に「人は国家に住むのではない。“国語”に住むのだ。“国語”こそが我々の“祖国”だ。」というものがある。渡航前の私は言語が変わった程度で自分そのものの本質は変わらないと考えていた。しかし英語で会話をし、自身の考えを述べていくうちにその言葉の意味に気がついた。自分の思考を英語にしているとき、言い換えや単語の意味の不一致などにより、自身の考えが変質してしまっていたのだ。“いただきます”と同じ意味の英語がないように、英語と日本語は完全に一致しない。その差異が思考の変質に寄与し、本来の自分とは異なる別人になってしまうのである。したがって、母国語とは重要なアイデンティティの一つであり、異文化の理解を難しくしている要因の一つでもあると考えた。よって、真に異文化を理解したければその言語も学ぶ必要があるのである。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修中はあまり気づかなかったが、今思い返すと英語を使って話すことができるようになったと思う。というのも、初めの頃はホームステイ先のホストマザーとの会話は会話というにはあまりにも短く、聞かれたことに対して答えることで精一杯だった。だが帰国する頃には文法・発音の正しさはさておき会話が成立し、その中で笑いも起こるほどに成長していた。これは英語力の向上によるものでもあるが、要因として1番大きいのは母語でない言語を使う恐怖の克服によるものが大きいと思う。なぜなら発した言葉が通じないかもしれないという恐怖は私自身をパニックにし、会話能力を著しく低下させるからである。この恐怖の克服のため、もがき話す私を温かく支え、理解しようとしてくれたホストマザーをはじめとしたパースの人々には感謝している。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>私はオーストラリアに10週間住んで、あまり外国人扱いされたような感じはしなかった。それどころかパースの人々は温かく、親しく接してくれた。島国の日本ではそのように感じることは難しいであろう。なぜなら、日本には1つの大きな共通の価値観・外見的特徴・言語があり、そこから逸脱した人間は虐げられることはなくとも警戒されてしまうからである。しかし、そのような風潮は通信や交通などの技術が発展し世界が狭くなっている現代にはふさわしくないものではないかと考える。したがって、地域社会の発展のため、時代に取り残されないためにさまざまなバックグラウンドを持つ人間を受け入れ共存していける社会を創る一員になりたいと思った。</p>	

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所 属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科1年

氏 名: 坂元 優一

授業科目名	STEMのための国際コミュニケーション海外研修(GOES)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修先では上司や友人に送るメールの書き方や、形式的なレポートの書き方について学びました。また、職業や芸術、文学についてクラスメイトと議論を行いました。講義の様子は日本とは大きく異なり、皆が積極的に意見を出し合い、自分の意見を表現しやすく、他人の意見を受け入れやすい環境で、そのような雰囲気づくりの方法についても学びました。議論においては、他人と同じ意見であっても、内容を発展させ独自の考えを加えることでより具体的かつ適切に意見を伝えられる技術を習得しました。また、コミュニケーションの面でも多くの友人を作り、砕けた話言葉を多く習得することができました。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>水不足の地域だったため、お風呂には浸からずシャワーも短い時間で済ませる必要があり食器も食洗機で洗う必要がありましたが、これによって水の価値と異なる文化に触れる機会が得られました。また、日本の忙しい国民性と違い、パースの人々は穏やかな生活を楽しんでおり、週末にはビーチでの穏やかなひとときを過ごす姿勢に強い印象を受けました。さらに、パースは公園の設備や交通機関が充実しており、バーベキュー台や無料のバスなどが提供されています。また、お会計の時には“How are you?”から始まる挨拶で、日本のお客様と従業員の関係とは大きくかけ離れた、お互いに会話を交わす様子から居心地のよさを感じました。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修先で得られた貴重な経験の中で、特に価値あるものは、異なる立場の友人が多くできたことです。日本では敬語などの言葉遣いの関係もあり、立場の違いが壁を築くことがあります。しかし、今回の研修では敬語がない故か、現地の大学1～3年生の学生と友人になり、留学先の講義では、最年少で17歳の学生とも友人になりました。これは私にとって大きな変化でした。人生の長さに関係なく、その人の考え方や国民性から多くの学びを得て私の価値観も大きく変わりました。日本の上下関係の強い文化も素晴らしいものだと思いますが、英語圏のこのような文化も私にとって心地の良いものであると感じました。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>具体的な取り組みは考えていませんが、これからの生活において、自分の意見を押し殺さず、考えを率直に表現し、多くの人とコミュニケーションを取りたいと考えています。そのためには、日本人の性格の特徴を理解し、それを尊重しつつ、お互いが円滑にコミュニケーションを取りやすい環境を築く努力をしたいと思っています。また、パースの穏やかな市民性や生き急がない社会性を広め、残業や過労死などの問題を減少させ、より住みやすい日本を実現する一助になりたいと考えています。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科1年

氏名: 中山 拓哉

授業科目名	STEMのための国際コミュニケーション海外研修(GOES)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>学校の授業では、積極的な発言やグループワークへの参加を心がけた。私はほぼ語学力ゼロの状態と言ってもいい状態からのスタートだったため、初めは授業についていくことがかなり難しかった。一番苦しんだのは、やはりコミュニケーションを取ることで、初めは伝えたいことを伝えられない悔しさを感じるが多かった。そのような状況でも、私が常に心がけていたことは行動力である。勉強をすることももちろん大切だが、積極的に外に出て、とにかくいろんな人とコミュニケーションを取る機会を作った。毎週のように現地の友達とご飯を食べに行ったり、一緒に出かけたりすることで、考え方や文化の違いなど、さまざまな話題について話すことができた。</p> <p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>私が現地での生活を通して気づいたこと(羨ましいと思っていること)の一つは、オーストラリアが多文化であること。食に関して、日本食、中華料理、韓国料理、インド料理、タイ料理など、さまざまな国の料理を食べることができる。大学の食堂内にも飲食店が多数あり、1度の留学で実に多くの国際色豊かな料理を楽しむことができた。また、多文化を最も感じた面は、人である。私は現地の方々とは仲良くなることができたが、海外出身者がとても多かった。日本で外国の方を見かけると、珍しいと思ってしまうことが多いが、オーストラリアではそれを全く感じなかった。また、彼らと話す中で、その国の文化や価値観などを知ることができ、とても良い学びであった。</p> <p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>ほとんど帰国前のことだが、簡単なフレーズに限っては、日本語で考えるよりも先に英語が出てくるようになったこと。毎週友達と会話をし、スラングなども教えてもらうことができたので、英語の授業では学べないような表現も知ることができた。これは私が心がけていた、コミュニケーションを取るという意識による成果だと感じている。また、積極的に行動することにより、自身で考えなければならないことも多く、さまざまな問題に対して、自身の力で解決する能力が上がったと思う。特に、一人でシドニー観光をした際には、さまざまところに足を運び、多くの人に話しかけることで、充実した時間を過ごすことができた。</p> <p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>近年は日本でも小学生から英語を学ぶようになっていて、英語に対する意識や見方が変わっているように感じる。私は意欲的に英語学習をしたい人や留学を考えている人たちに対して、自身の留学経験を伝えることで、多くの人に海外に興味を持ってもらうことが一つの目標である。短期間ではあったが、私の海外での経験や知識をより多くの人に発信することで、私のように英語が苦手な人たちの意識が少しでも変わってほしいと思う。そのためには、私自身がもっと英語を勉強し、英語や海外の魅力を知る必要があるので、今後も継続的に英語学習を続けていき、地域創成に向けて、積極的な行動を心がけたい。</p>	

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科1年

氏名: 林 賢宥

授業科目名	STEMのための国際コミュニケーション海外研修(GOES)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>留学を通じて、英語力の向上が著しく、その成長は自身にとっても驚きでした。留学前は英語への苦手意識が強く、論文の読解も難しいと感じ、コミュニケーションも困難でした。しかし、留学から帰国後、英語力が飛躍的に向上し、日常会話が可能になりました。この変化を実現するために、一つの方法を選びました。それは、積極的な英語の使用です。初めは文法や語彙の不足からコミュニケーションは難しかったですが、徐々に進歩を感じ、自信をつけました。特に、ネイティブスピーカーとの会話を通じて、日常的に使用される表現やフレーズ、相槌のうち方など、リアルな英語の雰囲気から学ぶことが出来ました。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>留学中に感じたことは、オーストラリアと日本の大きな違いです。最も印象的だったのは、オーストラリア人のフレンドリーさで、街中で簡単に会話が始まり、友達になれることでした。初めは英語が不得意でネイティブの言葉が理解できなかったものの、彼らは理解しようとしてくれたため、コミュニケーションが可能になりました。また、異なる人種、宗教、言語が共存する環境で生活することにより、視野を広げることができました。特に宗教についてこれまで自分が誤解していたことに気づくことができ、多様性を理解できて良かったと感じます。さらに、異なる考え方に触れることで、日本とは異なる文化や価値観を学び、貴重な経験となりました。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>留学を通じて、コミュニケーション能力が飛躍的に向上させることができました。留学前からコミュニケーションは得意でしたが、留学後はさらにスキルが磨くことができました。例えば、大学の図書館やカフェで友達を見つけ、新しい友達との交流を通じて、英語力を向上させることができました。留学前は英語がほとんど話せなかったのに、徐々に会話が楽しくなりました。また、友達を増やすために日本人とオーストラリア人とのコミュニケーションイベントに積極的に参加し、多くの友人を作りました。異文化の交流を通じて、たくさんコミュニケーションをとり、新たな友人との素晴らしい経験を楽しむことができました。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>将来はIT系の企業に就職し、留学で海外の企業で働くか、英語に関わる企業での経験を積みたいと考えています。留学前は福岡に戻り、地元での生活を想定していましたが、留学を通じて考えが変わりました。20代には海外で多彩な経験を積み、異なる価値観や文化に触れ、それを日本で社会貢献に役立てたいと思っています。将来はプログラマーになる予定で、国際的な視野を持ち、プログラマーとしてのスキルを社会貢献に活かしていきます。また、留学を通じて得た国際的な経験が、私の仕事に新しい視点をもたらし、クリエイティブな問題解決能力を高めると信じています。世界との連携を図りながら社会に貢献したいです。</p>	

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科1年

氏名: 村上 純奈

授業科目名	STEMのための国際コミュニケーション海外研修(GOES)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修先では主に平日の午前中は座学での英語学習をし、午後は各々学習をするという形だった。私は午前中に習った文法や単語を、午後にホストファミリーや友人との会話の中で使うという方法で英語学習を行っていた。そのおかげか、2ターム目にはクラスのレベルを上げることができた。そのほか、日本人同士で時間を過ごす時間も英語を使うことを意識し、間違った文法を使ったときは指摘し合うこと、UWAの生徒やホストファミリーなどネイティブな人とのかわりを多く持つことで、座学では学習し得なかった、日常会話で使う英語の使い方についても多く学ぶことができた。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>オーストラリアで生活をする中で、日本の文化とは異なる点を多く発見した。例えば、私が留学に来た初日、ホストファミリーは私をいとこの誕生日パーティーに連れて行ってくれた。私はとても驚いた。日本であれば、初対面の人を見知らぬ人のパーティーに連れていくことはないだろう。このほかにも全く知らない人のパーティーに連れて行ってもらうことは多かった。オーストラリアでは、友達という範囲がとても広いことに加えて、日本人よりも外面を気にしないように感じた。私も間違いを気にせず、英語を話すことができた。故に、私は英語を学ぶなら海外に行くべきだと思う。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修前に研究室に留学生の方が訪問したことがあった。その時私は、「少し待っていてください」と日本語で伝え、急いで先生を呼びに行った。しかし、パース研修中にミュージカルを見に行ったとき休憩中にイギリスの方に話しかけられ、英語でスムーズに会話することができ、自分でも驚いたことがあった。その時、自分の英語力の伸びを実感したことに加え、英語を話すということに抵抗がなくなったと感じた。これまで日本では、英語で伝えることができる状況でも英語を話すことが恥ずかしく、なかなか話せないということが多々あった。なのでこれは私の中の大きな変化だと思う。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>私はこの海外での経験を活かして、鹿児島に住む外国人の住みやすさ向上に取り組んでいきたいと思った。私の場合は3か月という短い時間ではあったが、日本と海外では文化や考え方に大きな違いがあると感じた。それは新鮮でもあったが、長い間住むことを考えると住みづらさにもなっていると思った。なので、海外と鹿児島の距離感を縮めるために、今回のような留学の経験をSNSなどで発信したり、他の留学生の経験談を募集し、学生の留学のサポートをすることで、日本人の海外への理解を深め、様々な人が住みやすい地域づくりを目指していきたいと思う。</p>	

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科1年

氏名: 富吉 陽斗

授業科目名	STEMのための国際コミュニケーション海外研修(GOES)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>研修先では主に英語学習がメインであり、二週間に1度の頻度で工学や理学に関することを西オーストラリア大学(UWA)で学ぶ機会がありました。英語の能力に関しては、渡航前のレベルがかなり低かったこともあり、授業で良い成績を収めてクラスのレベルをアップすることもできました。特に日常生活の中では、最初の頃は相手の言っていることを理解することはできていませんでしたが、最後のほうではホストファミリーなどの話を理解できるようになっていたため、リスニング力は成長したと感じています。また、質問されたときどのように答えればいいのかということも学び、一方的に聞くだけでなく、こちらの意見を少しでも言えるように成長することができたと思っています。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>特に感じさせられたのはRの発音がとても大事だということです。日本人は特にそこを苦手とする傾向があると聞きました。UWAのPhDの人と意見交換をしているときに“Perth”と言っても、聞き取ってもらえませんでした。一緒にいた日本人は聞き取ることができているのに対して、現地の人やネイティブに対して伝わらなかったため、英語を話していくなかでRの発音がどれほど大事なのかを痛感させられました。また、英語はスペルが一文字違うだけの単語も多く存在しています。伝えたい単語をしっかりと伝えるためには、正しい発音が重要であるということを現地で改めて認識させられました。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>研修期間中は英語の授業を受けていましたが、クラスメイトには中国人、韓国人、コロンビア人がいました。彼らは私と年齢が大きく変わらないのに世界情勢や経済、政治についての話を英語でしており、私に意見を求めることもしばしばありました。私は選挙の投票に必ず行くようにしていたので、政治や経済についてある程度の知識は持っていると思っていましたが、世界の同年代の政治への関心の度合いには驚かされました。また、自分の意見をはっきりと伝えるということを学びました。授業中に“日本人はNOと言わないよね”と先生に言われました。日本人は相手を傷つけることが無いようにNOと言わない癖があります。ほかの国の人たちからしたら違和感があるとのこと、自分の意見をしっかりと伝えるということを意識して生活しました。その点は大きく成長したように感じます。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>日本とオーストラリアの最大の違いはNationalityだだと思います。日本には日本人が多いですが、オーストラリアには驚くほど多くの国籍の人がいます。日本が発展していくためには、国際色を取り入れていく必要があるように感じました。もちろん日本人が多いからこそそのメリットも生活を守ることを考えればあると思います。私は将来的に土木技術者となり、国を問わずに働きたいと考えています。その中で、より海外経験を積み上げて、少しでも世界の発展に寄与できたらと考えています。私は今回の研修で初めての海外を経験することができたので、この海外経験を大きく活かして、英語力を向上させて将来活躍したいと思っています。</p>	